

2016/06/01

損して「徳」とれ ～刺し米と絶品商品～

宮下佳廣

鎮守の森コミュニティの活動と一緒に進めている広井先生（今年 4 月から京都大学こころの未来研究センター教授）から、「相互扶助の経済（*Ordinary Economies*）」という書籍を薦められました。今回は、この本に紹介されている昔の商人のエピソードと現代の小売業の実践例からビジネスのあり方について考えてみたいと思います

江戸時代後期、大阪の商人山片蟠桃が、財政悪化の仙台藩伊達家の立て直しに苦心していた時、その礼金について聞かれた折に、「刺し米でよい」と答えました。「刺し米」とは、江戸に送る米を途中で吟味する際に、サシと呼ばれる道具を用いて抜き取る米のことです。藩の財政が苦しいことを承知していた蟠桃は、多額の礼金を一時金ではなく「刺し米」のような少量でも長期にわたる取引を重視したことが背景にありました。伊達家は、当時の礼金の相場から百両近い大金を支払う予定をしていましたので、わずかばかりの「刺し米」で済むのならと喜んで応諾しました。その結果、山片蟠桃の店は伊達家と長い信頼関係が築かれ、毎年続く刺し米のおかげで繁盛したと言われております。やがて蟠桃は学問の道に入り、町人学者として名声を博し、現在では大阪府が「山片蟠桃賞」という国際文化賞を設けるまでになっています。

現代の小売業の実践例として、中小スーパー福島屋の事例を紹介します。40 年前東京・羽村市で創業した「福島屋」は、二号店出店時に経営不振となり、倒産の危機を迎えました。「今までは、価格を下げる、展示方法を変える、派手なチラシを作る等、どうしたらお客が買ってくれるかばかりを考えていた。そうではなく、お客が喜ぶ商品をそろえることが小売業の原点だと発想を切り替えたことが復活の第一歩だった」と、のちに社長は述べています。自ら年間 120 日間全国を飛びまわり、メーカーや生産者が価値を伝えきれていない商品を発掘していきました。そのため、店内には、1 本 580 円の高級牛乳やイワシの削り節など珍しい商品がずらりと並んでいます。さらに選り抜かれた無農薬野菜や店内の厨房で調理する地方色豊かな総菜は東京では見かけない「絶品商品」として評判となっています。大変な時間とコストをかけた仕入れの知恵と工夫が実り、チラシを出さず、安売りをしなくとも熱狂的なファンが楽しんで買い物をする店づくりに成功しています。

この二つの例は、何よりも相手に感謝され、かつ楽しんでもらえるという、徳のある行為であることが共通しています。昔から商売は損して得とれといわれますが、本来は損して「徳」とれという意味だそうです。千代田の皆さんの日常業務に置き換えてみれば、目の前の利に飛びつくことなく長期にわたる信用を第一に考えることと、相手が心の底から満足することは何かを考え、その実現のための労を惜しまない事がビジネスの基本であることをこの事例から学んでいただきたいと思います。

感想・ご意見など ym2041@axel.ocn.ne.jp 迄、ご連絡いただけたら幸いです。

今に生きるチャーチルのメモ ～簡潔に述べる訓練～

宮下佳廣

現代社会はさまざまな情報があふれており、それらの伝達と収集が生活の一部となっています。この情報伝達の心構えについて、昨今 EU からの離脱を決め世界の注目を浴びている英国で、今から 76 年前首相の座についたウインストン・チャーチルが、政府各部局の長に送ったメモをとりあげてみました。当時英国は第二次世界大戦のさなか、ナチスドイツの攻撃を受け壊滅の危機に瀕していました。

「われわれの職務を遂行するには大量の書類を読まねばならぬ。書類のほとんどすべてが長過ぎる。時間が無駄だし、要点を見つけるのに手間がかかる。報告書をもっと短くするようにご配慮ねがいたい」と始まっています。そのポイントは、

- (i) 報告書は、要点をそれぞれ短い、歯切れのいい文章の節や段落にまとめて書け
- (ii) 複雑な要因の分析や統計に基づく報告では、分析や統計データは付録とせよ
- (iii) 見出しだけを並べたメモを用意し、必要に応じて口頭で補う報告で良い
- (iv) 次のような言い方はやめる：「次の諸点を心に留めておくことも重要である」

「・・・・・・を実行する可能性を考慮すべきである」、この種の持ってまわった言いまわしは埋め草 (filler) ※にすぎない。省くか、一語で言い切れ。

私のいうように書いた報告書は、一見、官庁用語を並べ立てた文章と比べて荒っぽいかもしれない。しかし、時間はうんと節約出来るし、真の要点だけを簡潔に述べる訓練は考えを明確にするにも役立つ。

このようなチャーチルは、1945 年 5 月ドイツが降伏した時、この重大ニュースを「本日ドイツ政府は降伏を申し入れた。したがって対独戦争はこれをもって終了した。国王陛下万歳！」と、最大級の形容詞をつかうことなく、事実のみを淡々と伝えました。戦勝を祝う熱狂的なメッセージを期待した多くの英国国民は憤慨したそうです。まさにチャーチルの面目躍如といえましょう。（出典：自由と規律 1949）

チャーチルのメモは今も色あせることなく、現代に生きる私たちに通用する教えます。特に重要なことは真の要点を簡潔に述べる訓練は考えを明確にすることにつながるという点です。その要点を述べる際に、心掛けてほしいことは、「このような事実に基づき、私はこう考える」と明確に**事実と意見を峻別**することです。この考え方の詳細については、次号（8 月）で述べる予定です。更に留意点を加えれば、

- ・音読（声を出して文章を読む）で違和感があれば、文脈に無理があると考えろ。
 - ・パソコン使用時は、必ずプリントアウト（画面では気づかないミスを発見）。
- これらを繰り返し行う中で、考えを明確にすることが身についていきます。

※埋め草：城攻めのとき、堀や溝を埋めるために用いる草やその他の雑物。空いたところや、欠けた部分を埋め補うものから、雑誌・新聞などの余白を埋めるために使う短い記事。

感想・ご意見など ym2041@axel.ocn.ne.jp 迄、ご連絡いただけたら幸いです。

仕事の文書の心得 ～事実と意見の違い～

宮下佳廣

今月は、「事実と意見の峻別」について 1981 年に出版された『理科系の作文技術』からご紹介します。この本は、学生や社会人が研究や仕事の上で必要とされるレポート、報告書、論文、説明書、プレゼンなどの表現技術のコツをまとめたもので、著者は元学習院大学学長、物理学者の木下是雄です。今年 3 月には 81 刷となり、累計発行部数 100 万部を超える隠れたベストセラーです。

文書で人に何かを伝える際に、私たちが真っ先に考えなければならないことは、「必要なことを漏れなく記述し、必要でない事は一つも書かない」という大原則です。そのためには、相手の要求や予備知識を勘案しながら、「何を、どう伝えるか」を考えます。この点について、前号で紹介したチャーチルは、ドイツ降伏時に熱狂的な戦勝メッセージを期待する国民に対し、「対独戦争終了、国王陛下万歳！」と、「事実と意見」を峻別して淡々と伝えました。

私たちが、最も陥りやすい注意点として、自分の意見をあたかも事実のように伝えてしまう事実と意見の混同があります。事実とは、自然に起こる事象や自然法則、過去に起こった出来事や人が関与したトラブル、テスト・調査によって真偽を客観的に確認出来るもの、等です。事実の裏打ちがあって初めて意見に説得力が生まれます。それだけに事実の根拠、出典が重要となります。事実の記述の留意点としては、名詞と動詞で書くことと文中に「すぐれた」、「便利な」というような主観に依存する修飾語を入れないことです。これに対して、意見とは、自分なりに考え、感じて到達した結論で、推論や判断が含まれます。例えば、彼は汗をかいているから暑いにちがいないというような推論や、彼は優れた営業マンであったというような判断がその例になります。意見の記述の留意点としては、頭（私は）と足（と考える）を省かないことがポイントです。

「事実と意見」が峻別された記述を文章としてまとめる際に心掛けることは、明快、簡潔で順序よい記述です。明快、簡潔な記述とは、その表現が他の意味にとられないかを吟味する、例えば、～ではないかと思われる等のぼかした表現は避け、はっきり言える事はズバリと言い切ることです。順序よい記述とは、文章全体が論理的な順序で組み立てられている、すなわち一つの文と次の文が連結されていて、その流れをたどっていくと自然に結論が導かれるような文章です。相手はまず何を知りたいのか、情報をどういう順序にならねば読み手の期待にそえるか、ということに配慮することが必要です。

以上の要点を上司から部下への職場指導で繰り返し訓練していくことから、仕事の文書の心得が身についてゆくものと思われます。

感想・ご意見など ym2041@axel.ocn.ne.jp 迄、ご連絡いただけたら幸いです。

アゲハ蝶誕生！

～ 一期一会 ～

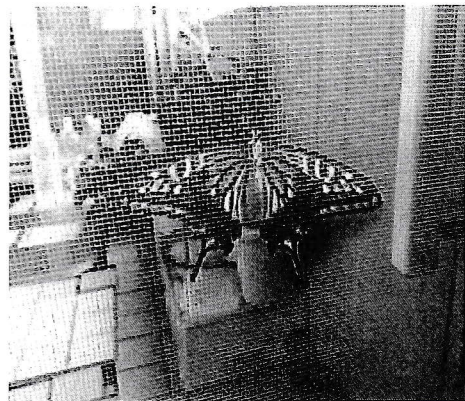
2016/09/01

宮下佳廣

都会のマンション生活の楽しみに、ベランダでの園芸があります。初夏、ハイビスカスが赤い花をつけ、「年々歳歳、花相似たり」を実感していたところ、今年はある事件がおきました。それは狭いスペースにおかれている鉢植えの一つに鳥の糞のようなものが二つ付いているのを家内が発見した事が始まりでした。

鉢植えの木は柑橘類の橘（たちばな）で、その葉の上の黒い固まりから毛虫が生まれ、やがて緑色の青虫になっていきました。彼らは葉をむしゃむしゃと食べ、近づく音が聞こえるほどの旺盛な食欲で、みるみる大きくなっていきました。図鑑によると、蝶は種類によって食べる植物が違うこと、例えば柑橘類を好むのはアゲハ蝶で、モンシロ蝶はキャベツを食べるようです。このことには、蝶と植物の長い共進化の歴史が関係しています。植物は、蝶の幼虫に食べられないように「毒」や「まずい成分」を合成し、それに対して蝶はその化学物質に抵抗力をつけてきたのです。

アゲハ蝶の生存率について、100個の卵から成虫になれるのはわずか0.6頭という研究結果があります（動物学上では、鳥と魚を除くすべての動物は、一頭、二頭と「頭」を用いて数えます）。これは、蜂、クモ、アリ、鳥などの天敵にさらされていること、いわば食べる・食べられる関係（食物連鎖）があるからです。これにより自然界の生態系が維持されているのです。私たちヒトも、その生態系というジグソーパズルの一片といえましょう。



早朝羽化し、ベランダの網戸で翅を乾かすアゲハ蝶

今回の二頭のアゲハ蝶の変態（卵、幼虫、蛹、成虫と体の仕組みや形を変える）に感心させられたことは、捕食者が少ないと思われる7Fのベランダの一番端にある柑橘類を見つけたこと、さらに樹高40cmの橘の鉢植えの葉は二頭の成長のためにギリギリまで活用されたことでした。

こうして、知恵と運に恵まれた母蝶のおかげで、二頭のアゲハ蝶は無事誕生しました。数週間、私たち夫婦の話題はこのアゲハでもちきりでしたが、誕生に立ち会えたことは新鮮な喜びでした。ともすると私たちは、パソコンやスマホから流れてくる大量の情報に目を奪われ、時間を浪費しがちです。今回、身近にある自然との触れ合いの大切さをアゲハ蝶に教えられました。千代田のみなさんには、このような人生に彩を添えてくれる一期一会の体験を色々な場面で数多く見つけていただきたいと思います。そのことが皆さんの豊かな人生につながっていくことでしょう。

感想・ご意見など ym2041@axel.ocn.ne.jp 迄、ご連絡いただけたら幸いです。

「無用の用」を発見する
～遠回りする時間～

宮下佳廣

芸術の秋を迎え、各地で美術展が盛んに行われています。今年は、4月に行われた伊藤若冲生誕300周年展（東京都美術館）が大きな話題を集めました。1ヶ月余の開館で45万人が訪れ、最長待ち時間5時間20分という記録的な人気でした。私は、4時間待ちで何とか鑑賞できましたが（おかげで長編を一冊読み終えた）、なぜ人は、このような日常生活に無用と思えることに時間を費やすのだろうかと考えてみました。

無用について考える際に、中国の古典を紐解いてみました。中国には儒教と道教の二つの教えがあります。儒教は人倫の規範（仁・義等の徳目）を説く社会を背負うエリート的心得を教えたものであり、道教は民衆の思想ともいべき社会の底辺を支える教えです。それぞれの始祖は前者が孔子・孟子、後者は老子・荘子です。無用について、老子は「粘土をこねて器を作るが、器の中に空洞があることによって器としての働きがある。その空洞は無用と言えるか」と問いかけています。そして、人は明らかに役立つものの価値はわかるけれども、人生において真に有用なものは無用に見えることに気づかない。むしろ「無用の用」を発見することが大切であると論じています。

これから紅葉の季節に向かい、山登りを計画されている方も多いのではないのでしょうか。私たちは、高い山に登り頂上を極めた快感とそこから眺める美しい景色を格別なものと感じます。この喜びを味わうためには長い時間をかけて自分の足で登らなければなりません。現代人は多くの人達を一度に運ぶという「有用」なロープウェイを作り出しました。山道ですれ違う際に交わす「こんにちは」の挨拶、ふと目にする小動物や植物、そして清冽な谷川でのどを潤す、これらは、一挙に頂上に到達する時間短縮という「有用」さに比して「無用」と言い切れるものでしょうか。今、私たちはあふれる文明の利器から多くの恩恵を受ける一方、「無用の用」を置き忘れているのではないのでしょうか。

鎮守の森の活動で、現在島根県の飯南町という人口5,000人の町で地域創生をサポートしています。このプロジェクトは、千葉大学の後輩の学生から、飯南町主催の森林療法シンポジウムにメインゲストではなく応援の形で参加してほしいとの依頼がきっかけでした。その後、懇親会で居合わせた町長と意気投合し、小水力発電やバイオガス発電のプロジェクトに進展しています。当初、飯南町行きは遠隔地でもあり、費用対効果の面からも優先度は低く、若い人の要望に応えたいというそれだけの気持ちで臨んでいました。望外の展開に驚くと同時に普段目に見える成果や効率に目を奪われがちであることに気づきました。千代田の皆さんも、「必要な人にだけ会う」という日常業務にありがちな行動パターンから「遠回りする時間」を意識することにより、新しい世界に出会えることでしょう。

感想・ご意見など ym2041@axel.ocn.ne.jp 迄、ご連絡いただけたら幸いです。